

平成二十三年度 大学院人文科学府博士後期課程第2期編入学試験問題
(中国哲学史)

※解答は答案用紙を横(受験番号欄を右位置)にして、縦書きで記しなさい。

一、次の項目から五つを選び、知るところをそれぞれ三〜四行で記しなさい。

- ① 老子 ② 陶弘景 ③ 司馬承禎 ④ 李卓吾 ⑤ 大慧宗杲 ⑥ 南華真經
- ⑦ 真靈位業圖 ⑧ 周易參同契 ⑨ 仁學 ⑩ 大学或問 ⑪ 神仙思想
- ⑫ 上清派道教 ⑬ 道統觀念 ⑭ 公案禪 ⑮ 崎門學

二、中国における道教研究の現状と今後の課題について論述しなさい。

三、次の文章を書き下し文に改め、口語訳しなさい。『魂書』による)

道家之類、出於老子。其自言也、先天而生、以爲萬類。上至玉京、爲神王之宗、下在紫微、爲飛仙之主。千變萬化、有德不離、隨感應物、賦迹無常。以軒轅於魏朝、致帝得於政德、氏國開長生之訣、伊陽受道惠之旨。至於丹書黃字、昇玄衆妙之經、玉石金光、妙有華耀之書。如此之文、不可殫紀。其爲教也、至妙至靈、深源心跡、廣旨難測、累德積善、乃玉皇曰昇天、長生世上。所以廣原、開感、甘心不取。帝置華蓋於靈殿、尊神居於丹房、而爲禮。及陳魏梁道於陶陶、西晉天官、奉太子有二百、弟子相授、共事大行。靈神難拜、各成法道。一有三元九府、百二十官、一切諸神、咸所統攝。又稱劫賊、頓領歸經。其經陳、說、經、亦開、開之、皆其者也。及其劫終、爲天運俱壞。其書多有靈驗、非其走也、不得靈驗。至於化金銷玉、行符散水、奇方妙術、其書千條、上一篇比成六、次傳消災滅禍。此好異者往往而信之。

四、次の文章を書き下し文に改め、口語訳しなさい。『王羲集』による)

君子之學、貴於得悟、悟門不開、無以徵學。入悟有三：有從言而入者、有從靜坐而入者、有從人請事發練習而入者。得於言者、謂之解悟、觸發印正、未離言詮、時之門外之寶、非己家珍；得於靜坐者、謂之證悟、收攝保聚、猶有待於境、譬之濁水初澄、濁根尚在、雖遇風波、易於淆動；得於練習者、謂之徹悟、摩磨鍛煉、左右逢源、譬之湛澹冷然、本來晶瑩、愈震澹愈凝寂、不可得而澄澹也。根有大小、故敵有淺深、而學有難易、及其成功一也。

夫悟與迷對、不迷所以爲悟也。百姓日用而不知、迷也；賢人日用而知、悟也；聖人亦日用而不知、忘也。學至於忘、悟其幾矣乎！先師之學、其始亦從言而入、已而從靜中取證、及居夷處困、動忍增益、其悟始徹。一切經綸變化、皆悟後之緒餘也。赤水玄珠、索於罔象；深山至寶、得於無心。此入聖之微機、學者可以自悟矣。